

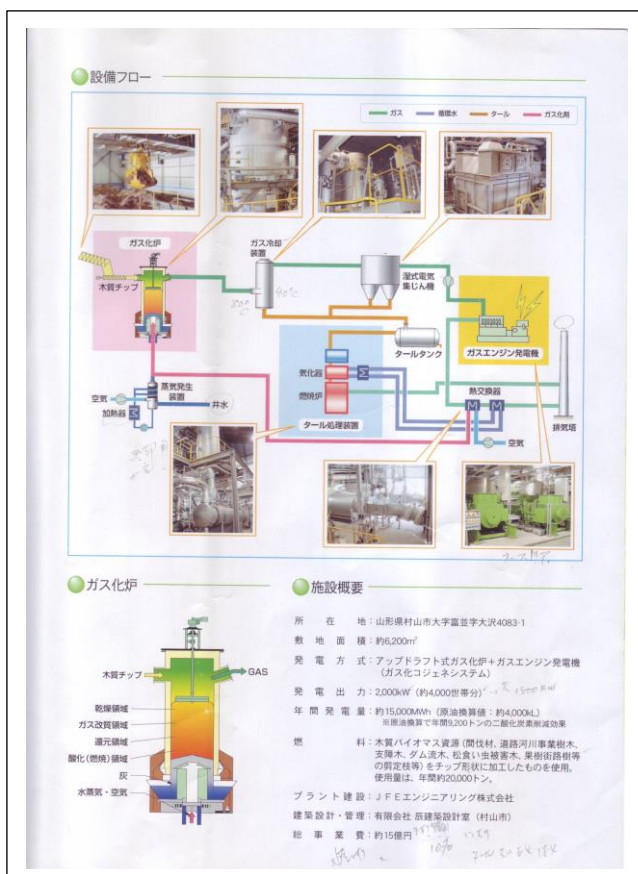
やまがたグリーンパワー木質バイオマス発電施設事例(村山市)

視察日 平成26年2月20日(木)
 視察先 村山市ウエルネスタウン最上町

村山市周辺では、サクランボ栽培が盛んで、剪定枝などの処分困っていた。
 (県下では300~400トン、村山市で200トンの剪定枝が発生)
 野焼きはできず、農家の悩みであった。

この事業は未利用の林業系バイオマス資源(間伐材、伐採木、伐根、木材センター等のバーク、半端材、公共施設整備に伴う伐採木等、街路樹・公園等の剪定枝等)、さらに果樹園の剪定枝等をエネルギーとして有効利用する施設。

山形県の年間の木質バイオマス資源発生量は約13万トン。そのうち果樹剪定枝が3.9万トン。村山地域で、その果樹剪定枝は2万トン。これらを燃料としたガス化発電施設を平成17・18年度に建設した。(経済産業省補助)
 デンマークでの事例がある。機械本体はオーストリア製。電気 1,500kw。材料の含水率は60%ぐらい。生木の状態。発電した電気は東京のCOOPに買ってもらっている。
 タールが発生するが、A重油、木酢液などとして処理。



日南町で目指す、バイオマス利用地域熱供給事業に、大いに参考になりました。
 各地域での先行事例を学んで、日南にふさわしい事業を実現できればと思います。